地域情報（県別）

【岩手】予想以上の盛況、23時過ぎまで診療も-和田知樹・いわてスポーツ・整形外科クリニック院長に聞く◆Vol.2

内覧会に300人、2カ月で3000人受診、大きな期待を感じる

m3.com地域版

順天堂大学医学部でスポーツ医学を学び、東京オリンピック・パラリンピックの選手村でも整形外科医として経験を積んだ和田知樹医師が2024年5月、地元の盛岡市で「いわてスポーツ・整形外科クリニック」を開院した。和田氏に、開院してからの手応えや、今後の目標などについて聞いた。（2024年7月11日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら

和田知樹氏（本人提供）

――いわてスポーツ・整形外科クリニックの開院までに、大変だったことや不安に感じたことはありましたか。

開院前、私は青森県八戸市のなかざわスポーツクリニックで勤務していました。働きながら開院準備を進めていましたので、日々の勤務と準備を両立するのが大変でした。

また、私は盛岡が地元ですが、盛岡で働いたことはありませんでしたので、受け入れてもらえるか不安でした。盛岡の変化にも驚きました。私が高校卒業まで過ごしていた盛岡と、今の盛岡は違います。今、いわてスポーツ・整形外科クリニックの周りはにぎやかになっていますが、昔は畑と田んぼだけでした。

――開院資金について教えていただけますか。

開院資金はありませんでしたので、金融機関から借り入れました。そのために事業計画を策定し、プレゼンもしました。いくつか金融機関を回り、「いいですね」と好感触を得たこともありましたが、「盛岡で働いたことがありませんが、大丈夫なのですか」「本当に患者さんは来ますか」など、いろいろな指摘も受けました。最終的には、私の熱意やビジョンに強く共感してくださる金融機関から低金利で借りることができました。

――開院前に内覧会を開いていますが、どうでしたか。

開院前に内覧会を開くクリニックは少なくないと思います。ただ、私のように広報にも力を入れ、大々的に内覧会を開くのは珍しいのではないでしょうか。私は盛岡に知っている医師もいませんでしたので、とにかく地域の方々にいわてスポーツ・整形外科クリニックを見ていただき、当クリニックを知っていただこうと思い、内覧会を開催しました。

結果は、予想以上の大成功でした。最初は「100人は来てくれるのではないかな」と思っていましたが、300人以上の方々が来てくだいました。当クリニックは「スポーツに関わる全ての人の笑顔を守り、地域の人々の健康を守ることで、岩手・東北に貢献する」を理念としていますが、理念に共感し、期待を寄せてくださる方が多いのだなと感じ、気が引き締まりました。

――開院して約2カ月ですが、手応えはいかがですか。

5月7日に開院しましたが、大きな手応えを感じています。この2カ月で延べ3000人の方が来院してくださいました。ありがたいことに、岩手県内だけではなく、秋田県や青森県から来てくださる患者さんもいらっしゃいます。開院翌週の13日（月）は19時まで受付でしたが、たくさんの方が来てくださり、全ての診療が終わったのは23時過ぎでした。小学生も遅くまで診療を待っていてくれました。

今まで、この地域にスポーツ診療のできるクリニックはありませんでした。スポーツする方々が待ち望んでいたクリニックであるため、たくさんの方に来ていただけていると思っています。この現状に安住することなく、患者さんのニーズにもしっかりと耳を傾け、期待以上のクリニックを必ず作ってみせます。

診察の様子（本人提供）

――どんな方が来院されていますか。

　午前中は中高年の患者さんが多く、診療としては整形外科が中心です。夕方になると、部活を終えた10代の子たちが多くなり、スポーツ診療が中心となります。甲子園の地区予選が始まりましたので、最近は野球をやっている子たちが多いですね。

――いわてスポーツ・整形外科クリニックの強みは何でしょうか。

まずは、スポーツ診療を大々的に掲げている点です。私は、順天堂大学医学部でスポーツ医学を学び、東京オリンピック・パラリンピックでも経験を積みました。これらの経験を還元したいと思っています。

もう1つは、再生医療です。再生医療も、岩手にはなかった分野です。しかし、地方だからこの治療はできませんというのではなく、地方でも最新の治療が普通にできるようにしたいと思っています。

――岩手の地域医療をどのように見ていますか。

岩手の医師は本当に頑張っていると思います。ただ、人材不足ですので、できないことも多いというのが現状です。最先端の医療を提供できる施設が、岩手にはもっとあっても良いと思います。もちろん、新しいものが良くて古いものが悪いというわけではありませんが、新しい治療法を取り入れ、患者さんに対して多くの選択肢を提供することは大切だと思います。私個人としても、最新の動向には敏感でありたいと思っています。

また、最近はインターネットで何でも調べられますから、患者さんもいろいろなことを知っています。「この治療はできないんですか？」と患者さんに聞かれ、「申し訳ありませんが、あいにく岩手では受けられません」というのは良くありません。どこにいても、先端の治療が受けられるようにしていく必要があると感じています。

――独立やUターンを考えている医師に伝えたいことはありますか。

何かやりたいことがあるのに、迷っているのなら、思い切って挑戦してほしいですね。大きな病院や組織にいると、そこのやり方から抜けられなくなってしまうと思います。また、今の組織を出るのは不安かもしれませんが、出ても何とかなります。今の組織を飛び出してみないと、実現できないこともあるでしょう。私自身、医局を飛び出し、開院を目指しましたが、「やってみたら、できちゃった」といった感じです。若いうちに、一歩を踏み出しましょう。

――最後に、今後の目標を教えてください。

私のビジョンは「スポーツで東北を変える」です。その根底にあるのは、「けがでスポーツのできない子どもたちを何とかしたい」という考えです。ヤングアスリートやジュニアアスリートが、けがで苦しむことなく、笑顔でスポ

ーツできる環境を守りたいと思っています。女性アスリートへのサポートも、今以上に考えていかなくてはいけません。

　また、菊池雄星選手や大谷翔平選手といったメジャーリーガー、北京の冬季オリンピックのスキージャンプで金メダルを獲得した小林陵侑選手ら、岩手から世界で活躍する選手が育っています。トレーニング方法など、選手を育てる練習環境は進化していると言えます。その反面、選手を支えるメディカルは、ほとんど変わっていないのが現状です。変えなくてはいけないことが少なくありません。

　開院から2カ月がたち、たくさんの方々が来てくださっていますが、いわてスポーツ・整形外科クリニックの知名度はまだまだです。もっと知名度を高めていかなくてはいけないと思っています。知名度が高まれば、影響力も高まり、岩手や東北に対し、できることも増えるはずです。まずはクリニックの経営を安定させて知名度を上げ、「スポーツで東北を変える」ための土台をしっかり築きたいと思います。

◆和田 知樹（わだ・ともき）氏

2009年、順天堂大学医学部を卒業。順天堂静岡病院整形外科、伊豆保健医療センター、順天堂浦安病院、江東病院、東京オリンピック選手村ポリクリニック整形外科、なかざわスポーツクリニックを経て、2024年5月、いわてスポーツ・整形外科クリニックを開院。医学博士、日本専門医機構整形外科専門医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医・リウマチ医、日本スポーツ協会スポーツドクター、日本パラスポーツ協会パラスポーツ医。

【取材・文＝武井克真】

記事検索

ニュース・医療維新を検索